

中学1年生の英文法：動詞と文の基本ルール

【be動詞】動きがなくて「状態」を伝える



状態・存在

存在（～にいる/ある）や状態（～です）を表す。
種類は am, are, is の3つだけ。

am, are, is

【be動詞の疑問文】be 動詞を前に出して「様子」をたずねる

主語と be 動詞をひっくり返すだけ。

You are a student. → Are you a student? Yes, I am. / No, I am not.

【be動詞の過去形】その時の「状態」を過去形で伝える

am / is → was

are → were

「～でした」「～にいました」。

【一般動詞】「行動」や「気持ち」をそのまま表す



動作・気持ち

動作や状態を表す、be 動詞以外のすべての動詞。

例：play, study, eat, like など。

【一般動詞の疑問文】先頭に Do を置いて「動作」を聞く

文の先頭に Do (Does) を置き、動詞は必ず原形に戻す。

Do (Does)

You play tennis. → Do you play tennis? Yes, I do. / No, I don't.

【一般動詞の過去形】過去に起こった「出来事」を語る

規則動詞 (ed) と不規則動詞 (go→went, eat→ate) がある。 play→played
疑問文・否定文では Did を使い、動詞は原形に戻る。 go→went

【疑問詞】もっと具体的にたずねる

What (何), Who (誰), Where (どこ),
When (いつ), Why (なぜ), How (どう) など。

必ず文の先頭に置く。

★最重要ルール：三人称・単数・現在（三単現のs）★

主語が「三人称」かつ「単数」で、文が
「現在形」のとき、一般動詞に s や es がつく。

※三人称単数=I (一人称) と You (二人称)
以外の単数のもの金。
例: He, She, It, Tom, My mother など。

特殊な変化に注意
study → studies
have → has

⚠ 疑問文・否定文では Does を使う
Does を使うと、動詞の s は消えて原形に戻る。
例: He plays soccer. → Does he play soccer?

【命令文】動詞で始めて相手に「指令・お願い」をする
主語を省時し、動詞の原形で始める。「～しなさい」。
丁寧にするなら Please をつける。禁止は動詞の原形。

時を表す表現（時制）



【現在進行形】今している最中の「動き」を表す

形：be動詞 + 動詞ing形。
「～しているところです」。



【過去進行形】その時していた
「動作」を映像のように映す

形：was / were + 動詞ing形。
「(その時) ～していました」。

【未来表現】

意志・予測 vs 決まった予定



will + 原形

その場で決めた意志・予測。
「～するつもりだ」。



be going to + 原形

前から決めていた予定。
「～する予定です」。

その他の重要表現



【Let's の文】一緒にしようと相手を「誘う」

Let's + 動詞の原形。「～しましょう」。
答え方：Yes, let's. / No, let's not.



【指示代名詞】近い物と遠い物を「指し示す」

近く：this (これ) / these (これら)
遠く：that (あれ) / those (あれら)。
単数と複数で使い分ける。



【助動詞)文】気持ちや意志を動詞に「添える」
can (できる), will (だろう), must (すべき) など。
話し手の「気持ち」を動詞にプラスする。



【人称代名詞(目的格)】動作の対象「～を」「～に」
me (私を/に), us (私たちを/に), you (あなたを/に),
him (彼を/に), her (彼女を/に), it (それを/に),
them (彼らを/に)。
動詞は必ず原形。

中学2年生の重要英文法 総まとめノート

サクッと受験ノート

Created by JUKEN CAMP

存在を伝える【There is / are】

There is / are ~ 「～があります / います」

そこに物が「存在する」ことを伝える表現。

使い分けのルール

- There is + 単数名詞
- There are + 複数名詞

※文末に場所を表す言葉が来ることが多い。

ものを比べる【比較表現】

比較級 「(2つのうち)～より…」

形は「形容詞 / 副詞-er」または「more + 形容詞 / 副詞」。
比較対象は「than」で示す。(注意: good/well → better)

最上級 「(3つ以上の中で)一番～」

形は「the + 形容詞 / 副詞-est」または「the most + 形容詞 / 副詞」。
範囲は「in」(場所) / 「of」(数)で示す。(注意: good/well → best)

as ... as ~ 「～と同じくらい…」

形は「as + 形容詞 / 副詞 + as」。
「not as ... as ~」で「～ほど…ではない」という意味になる。

文をつなぐ【接続詞】

When 「～する時」

時を表す。文頭にも文中にも置ける。

When A, B.
B when A.

If 「もし～なら」

条件を表す。文頭にも文中にも置ける。

if A, B.
B if A.

that 「～ということ」

名詞節を導き、動詞の目的語になる。
「think that ~」「know that ~」の省略可能。

S V that + 文

Because 「～ということ」

理由を表す。Why?で問かれた
質問の答えになる。

S → 文

Because 「なぜなら～なので」

理由を表す。Why?..?

Why...? → Because...

While 「～している間に」

期間を表す。進行形と
替用使われることが多い。

While A is -ing...

文のカたち【文型】

第4文型 SVOO 「人に物を～する」

構文は「主語 + 動詞 + 人(O) + 物(O)」。
人に物を表す、与える動作を表す。

第3文型への書き換え

- 「物 to 人」の形になる動詞
(give, show, teach, tell)
- 「物 for 人」の形になる動詞
(buy, make, cook)

第5文型 SVOC 「OをCにする/と呼ぶ」

構文は「主語 + 動詞 + 目的語(O) + 補語(C)」。

O = C の関係が成り立つのが特徴。

代表的な動詞

- call A B (AをBと呼ぶ), name A B (AをBと名付ける),
- make A B (AをBの状態にする), keep A B (AをBの状態に保つ)

動詞の形を変える①【不定詞(to + 動詞の原形)】

名詞的用法 「～すること」

動詞を名詞のように使う。
(例: like to play, want to study, try to read)

形容詞的用法 「～するための～」 「～すべき～」

直前の名詞を説明する。
(例: something to drink, time to go, homework to do)

副詞的用法 「～するために」 「～して」

目的や感情の原因を表す。
(目的の例: go to see a movie / 感情の原因の例: glad to meet you)

動詞の形を変える②【動名詞(動詞のing形)】

動名詞 「～すること」

動詞を行為そのものを表す名詞として使う。(例: playing, studying)

注意する動詞

finish, enjoy, stop の後ろには必ず動名詞が来る。(不定詞は使えない)

finish → ~ing
enjoy → ~ing
stop → ~ing

特別な表現

受動態 「～される」

～される側が主語になる表現。形は「be動詞 + 過去分詞」。
行為者は「by ~」で示す。

重要な連語

- be made of / be made from (～で作られている),
- be interested in (～に興味がある), be born (生まれる),
- be known to (～に知られている) など覚えておこう。

感嘆文 「なんて～なんだ！」

驚きや感動を強く表現する。

2つのパターン

- What a + 形容詞 + 名詞! (例: What a beautiful picture!)
- How + 形容詞 / 副詞! (例: How beautiful!)

中学3年生の重要英文法 総まとめノート

現在完了形

【経験】～したことがある



過去の経験や、それについての記憶を語る例に使う。
「have/has + 過去分詞」の形。

経験でよく使う言葉

ever (今までに)
never (一度も～ない)
once (一回)
before (以前に)。

【完了】ちょうど～したところだ

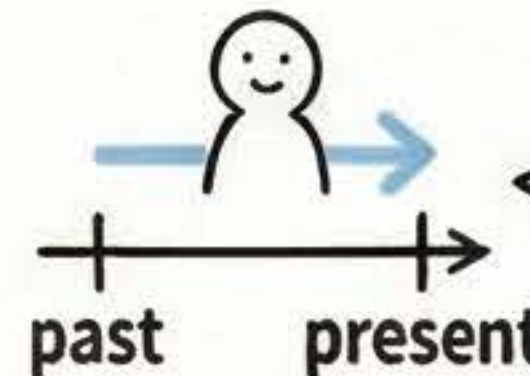


動作がちょうど今、完了したことを表す。
「have/has + 過去分詞」の形。

完了でよく使う言葉

just (ちょうど)
already (すでに)
yet (疑問文: もう / 否定文: まだ)

【継続】ずっと～している



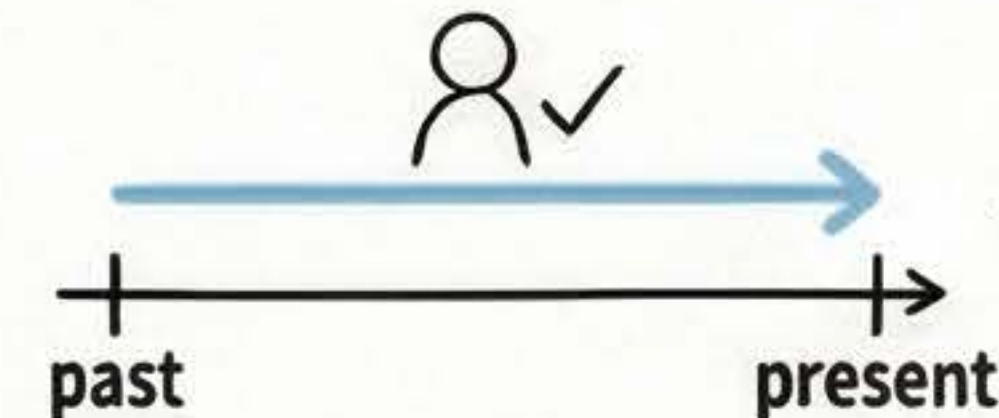
ある状態が過去から今までずっと続いていることを表す。
「have/has + 過去分詞」の形。

継続でよく使う言葉

for ~ (～の間)
since ~ (～以来)
How long...?

現在完了進行形

【動作の継続】ずっと～し続けている



過去から現在までの動作の継続・流れを強調して表す。
「have/has + been + -ing」の形。

名詞を後ろから説明するカタチ

【現在分詞】「～している」名詞

名詞 + -ing

[名詞 + -ing ...]

名詞の後ろに「-ing」のカタマリを置いて、名詞の動作を説明する。

頻出例

made in Japan → 「日本で作られた」 → 「日本製の」

【過去分詞】「～された」名詞

名詞 + 過去分詞

[名詞 + 過去分詞 ...]

名詞の後ろに「過去分詞」のカタマリを置いて、名詞が受ける動作を説明する。

関係代名詞

【主格】 (Subjective Case)	【目的格】 (Objective Case)	【所有格】 (Possessive Case)
主語の働きで 名詞を説明 	目的語の働きで 名詞を説明 	持ち主を示して 名詞をつなぐ
「～する(人/物)」。 先行詞の直後に who (人), which (物), that (両方)を置き、 すぐ後ろに動詞が 続く。	「(私が)～する(人/物)」。 先行詞の直後に whom/who (人), which (物), that (両方)を置く。 しばしば省略される。	「その(人/物)の ～が…である」。 先行詞の直後に whose (人・物) を置く。

不定詞・その他の重要構文

【It is for to構文】長い主語を後ろに回す
It is 形容詞 for 人 to 動詞の原形。
「(人)にとって～することは…だ」。

【too ~ to ...構文】「～すぎて…できない」
too 形容詞/副詞 to 動詞の原形。
「あまりに～なので…できない」。

【原形不定詞】toなしで動詞の原形が続く
・使役動詞 (make/let/have + 人 + 原形)
・知覚動詞 (see/hear + 人 + 原形) の後で使う。
・help + 人 + (to) 原形 も重要。

【間接疑問文】文の中に疑問文を埋め込む
・語順が「疑問詞 + 主語 + 動詞」になる点に注意。

【付加疑問文】文末で念を押す
・肯定文には否定形、否定文には肯定形を付ける。
「～ですよ?」という意味。

仮定法

【仮定法過去】現実とは違う現在の想像
If [主語] + 動詞の過去形,
[主語] + would/could + 動詞の原形。
「もし(今)～なら、(今)…だろうに/できるのに」。

仮定法過去の変遷点
現在の事実と反する
内容を語る。If 後のbe
動詞は、主語に関わらず
were を使うのが基本。

【I wish + 仮定法】叶わない現在の願い
I wish [主語] + 動詞の過去形。
「(今)～であればいいのになあ」。実現可能性が低いことを示す。